

## 別紙様式第10（第8条関係）

## 学位論文審査結果の要旨

博士課程 甲・乙	第 56 号	氏 名	山口 奈美
		主査氏名	原井 博幸
審査委員		副査氏名	黒田嘉紀
		副査氏名	吉村 三

## 【論文題名】

Screening for musculoskeletal problems in Japanese schoolchildren :

A cross-sectional study nested in a cohort

Yamaguchi N, Chosa E, Yamamoto K, Kawahara K, Hamada H, Taniguchi N, Tajima T, Funamoto T, Kurogi S, Ota T, Nakamura S. Public Health. 2016 Oct;139:189-197.

## 【要旨】

筆者らは「運動器の10年」日本委員会の事業の一つとして「学校における運動器検診体制の整備・充実モデル事業」を2007年度より宮崎グループとして参画し、7年間に渡り、小・中学校にて合計41376名の7項目の直接検診と問診による一次検診と医療機関での二次運動器検診を実施した。その結果、運動器疾患の推定被患率が8.6%で、学年が高くなるに従って3.2-13.7%と高くなること、二次検診での罹患運動器部位は背中が65.4%と最も多く、脊椎・脊椎以外が30%を超えていた（膝関節(8.1%)、足関節・足部(7.3%)、肘関節(5.4%)）。一次検診の問診票で問題なしとした対象のうち44.4%が二次検診で診断され、検診で診断に至った対象が69.8%も見出された。この小・中学校を基盤とした横断的研究から、小・中学校での運動器検診の重要性を提示し、全体の約30%に脊椎・脊椎以外の運動器障害があることから側弯検診だけでなく、学校運動器検診が必要であるとの基盤となるデーターを提示している。